

①どの言語活動でも「目的・場面・状況などを明確にする」ことが大切だと知り、授業ビデオを視聴した時に、子ども達の身近な事柄などの場面設定を行うと良いのかなど、授業作りのヒントに繋がった。先生がおっしゃっていたように、他教科や行事などと絡めて授業作るのも、子ども達の興味を引きつけて面白そうだと思った。確かに、形式や意味だけを理解するのは子どもにとってつまらないもので、日常で実践できた時（コミュニケーションを取ることができた時）は外国語の楽しさを味わえると思うので、授業の中でも対話や発表を取り入れてその達成感を感じられるように工夫していきたい。

②外国語活動は学校行事や他教科など児童の関心を引き出しながら、思いを伝える楽しさや嬉しさを味わえさせることのできる授業なんだと感じました。また、賢先生が言われていたように様々な活動方法や材料があって楽しいなとビデオを見ながら思いました。ビデオはシンプルで分かりやすく、実際の例もあって多くの学びがありました。「言語活動」は言語材料を練習するだけのものではなくて、実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動なのだと改めて学びました。聞く活動でインプットの際に、身近な人の話で、ジェスチャーなどもついていて、意味を推測させることや気づきを促す、興味が引かれるものだったと感じ、良いなと思ったし生かしていきたいと思いました。話す活動や書く活動などにおいても焦らず、十分に表現や単語に慣れさせながら段階を踏んでやることが大切なのだ、嘆願を通してゴールを達成する必要があるのだと感じました。

③今日の講義を通して、教師も生徒も、全体図や最終的なイメージを具体的にもつことの大切さに気付くことが出来た。実際に、言語活動の具体的な内容や、目標について学んでみたが、このような具体的な計画や内容を教師だけでなく、児童とともに確認し合いながら、学びを進めていければ、児童の学びの意義や、主体的に学びに向かう力というものも培われていくのではないかと思う。また、初めて知るものや経験したこととは異なるものも多くあり、学び続けることの重要性も同時に感じる事が出来た。

④今日の講義の所感として、私が小学生の頃の外国語活動を振り返ってみると、1時間1時間の授業が楽しかった記憶はあるのですが、どんな力が身につくかなどの単元の見通しの意識は無かったため、模擬授業の際には、本時のめあてだけでなく、単元を通じた目標も児童と一緒に共有できるよう心がけたいと感じました。また、今回学んだ言語活動のポイントの中でも、生きた言語活動となるように特に、「児童が本当に伝えたい気持ち、考え」を大切に、活動を練っていきたく感じました。

⑤他教科や学校行事と関連させながら英語の授業を行うことには驚きました。私も教科書

をそのまま使うのではなく、そのように関連させながら授業をしていけばいいなと思います。また、単元計画などをしっかりと頭に入れながら授業を作っていきたいです。指導案を考えるのは難しいですが、見通しを持って考えていけるように何度も書いて練習します。目的・場面・状況などを明確にした言語活動を通して学ぶことがとても大事だということがわかりました。実際のコミュニケーションを行う授業を作っていきたいです。話すことや聞くこと書くことなど様々な言語活動をちゃんと授業に組み込みたいです。

⑥今回の講義で外国語活動の授業づくりをする際は、教科書通りではなく子どもにとって身近なもの、興味のあるものを取り入れることが重要であることを学んだ。大城先生が社会科と関連させて授業を展開することをよくしているとおっしゃっていたのだが私も参考にしたいと思う。先月の附属小学校での実習配属学級担任である山中先生は、現時点ではどこを学んでいるのか、到達地点はどこなのかを常に子どもと共有していることを知った。私も模擬授業の始めにそれを取り入れたいと思う。また、今日の講義で言語活動の5つの領域についても学ぶことができた。なかでも最も領けたことは、形式と意味だけ学んでも言葉は生きてこないということだ。しっかりと目的、場面、状況を明確にし、それに応じて話す口調や表情を変えていく必要があることも学ばなければならない。日本の学校教育で教えられている英語は、実際に海外にはあまり使われていなかったりするものが多いという。この現状に加えて、形式と意味だけを学んでいたこれまでの英語教育をしっかりと見直していかなければならないと考える。教師を目指す身として今回学んだ5領域の言語活動について自分の中に落とし込めたいと思う。

⑦本時の授業を受けて、平成32年度（令和2年度）から移行された外国語活動及び外国語科の授業の変遷のイメージを具体的にイメージすることができた。学ぶ教科としての英語教育から、言語としてコミュニケーションを行うための手段としての英語力を身に付けるために、授業では以下の3つのことに留意して授業で言語活動を設定する重要性を学んだ。1つ目が、「目的・場面・状況などを明確にした活動」だ。活動の背景や相手の立場などを予め伝えてから行うことでより主体的に活動に取り組むことが出来る。次に2つ目に挙げられるのが、「自分の気持ちや考えを伝え合う活動」だ。言葉としての役割を果たすためには、手段としての英語を授業でも使っていくことが大切だ。最後に3つ目が「使いながら学ぶ、を心がける」だ。以上の3点を意識した授業において、例えば話題としては地域や学校の行事、他教科で既習の内容、子どもの興味事を取り上げ、これまでの既習表現に繰り返し触れさせるよう工夫することが、児童のコミュニケーション力の定着を図るうえでは必要となってくる。英語だけでなく言語運用能力やコミュニケーション力、そのものを向上させることが大切なのではないかと、本時の講義を通して考える。

⑧言語活動とは互いの考えや気持ちを伝え合う活動で、これは言葉の本来の役割であるこ

とが分かった。実際にコミュニケーションをして相手のことをもっと知れるというのが児童にとっては楽しい時間になるだろうと思った。英文の目的・場面・状況を明確に設定することで、児童は日常生活でもこの場面ではあの英文が使えるといったことを思い出して使えるようになると思った。

⑨今回の講義では、言語活動の本当の意味を知った。私は今まで言語活動は、英語を喋ればそれでいいと思っていたがそうではなかった。本当の言語活動とは、互いの気持ちや考えを言語を通して伝え合うことであり、前述の考えは言語活動はの1側面でしか無かったのだ。私は大きな勘違いに今回気づくことが出来た。これからは考えを改めて言語活動に取り組んでいく。

⑩今日の講義では、指導案を作成する時に意識すべきことを学んだ。まず、単元計画や単元目標をしっかりと考え、それに向けた授業になるよう意識をして、1時間ずつ考える必要がある。そして、目標はしっかりと子どもたちと共有することが大切である。また、教科書があるからといって教科書通りにやるのではなく、社会科や家庭科、総合学習などの他教科と連携して授業をするようにしようと思った。教科書と指導要領を参考にしながら、自分なりに授業を作っていけるようにしたいと感じた。現在は、移行期ということもあり子どもたちは教科書で想定されている授業時間を受けていないから教科書は難しいということなどもあるのを初めて知った。子どもたちの実態も十分に想定して授業を考えたいと思った。(

⑪第2回の講義を受けて、児童と目標を共有していくということの大切さについて、よく考えた。その際、先生が提示してくださった家の建築の例がとても役に立った。教師はもちろん子供たちにこんな力を身につけて欲しいという具体的なビジョンがある上で、授業を進める必要があるが、本当に目標を知っていなければならないのは実際に学習する子どもである。また、5領域における言語活動のビデオでは、互いの考えや気持ちを伝え合う、目的、場面、状況等を明確にした活動、英語を実際に使いながら学ぶということは、5領域のどの場面でも必要になってくることを知った。言語活動で核になるのは、言葉の機能を学ぶ、学習者に気づきを引き起こすことが大切であり、私が現場に出た時もその前も常に意識していきたい。

⑫4技能5領域の授業法についてビデオを見ながら具体的に知ることができたので、授業のイメージが湧いてきた。新学習指導要領において言語活動が重要視されているが、それは普段のコミュニケーションと何も異なるものではないから、より実践的だし効果的だと感じた。

⑬目的場面状況に応じたインプット学習、自分の気持ちを児童自身が伝えられるような練

習、英語を使いながら学ぶことと言った当たり前のことかもしれないが、これを教師が続けて行くことで児童の言語活動が活性化する可能性があることに気づけたと思います。ビデオはとても見やすく良かったと思います。ありがとうございました。

⑭学習指導要領の目標に向かって、単元や授業が積み重なっていることを教師、児童が理解して取り組むことで、児童が小学 6 年修了時の目標を達成することにつながると理解できました。家の建設における家主と、外国語学習における児童をイメージすると、家主である児童が単元計画を知ることで、完成図をイメージして積極的に関わろうとする姿が思い浮かびました。また、外国語活動において「本当の自分の気持ちを伝え合う」ことができるように、使う表現に慣れさせ、小さなステップを踏みながら、児童の実態に合わせて授業をつくるのが大事だと感じました。

⑮時間に間に合わせて入室しましたが、急用が入ってしまったため、30分ほどで退出しました。次回は出席したいと思います。

⑯学習指導要領に戻ることが大事な理由として、小学校 6 年修了時の外国語の学びを完成図として、学年の目標、単元目標、本時の目標が決められているからだと分かりました。また、授業をとおして児童は何ができるようになるのかを共有することは、新しい家を購入する家主さんと同じように児童をワクワクさせ、積極的に授業にかかわろうとする意欲を高めることにつながると感じました。今まで以上に外国語を身に付ける必要が高まっていることで、焦って詰込みの教育をするのではなく、言葉の本来の役割である 3 つのポイントを軸とした言語活動を通して、自分の本当の気持ちを伝え合う学習活動を目指していきたいと思いました。

⑰本日の講義で外国語活動の指導案作成、授業づくりをする上でヒントをたくさん得ることができた。学習指導要領が新しくなって移行期である現在、教科書が難しくなるのは当たり前のことであると思った。しかし本日の講義であったように、教科書は難しいとしても、授業そのものが難しくなるとはいけないと考えた。それで児童が外国語活動に対して苦手意識を持ったとしたら、それは学習指導要領を変えた意味がなくなるだろう。難しい内容をいかに簡単に、楽しく学ばせるのが、教師の役目であるだろう。今日の講義を通して、そのヒントをたくさん手に入れたので、それを参考にしながらまずは模擬授業に向けての、指導案作成、授業づくりを進めたい。

⑱指導案を書き始めていますが、どのような活動をすれば良いか悩んでいたため、今回授業例を見ながら授業のポイントを抑える事が出来て良かったです。外国語活動はありとあらゆるものを教材にし、楽しい活動を組み込む事が出来る事を理解することができましたが、

その反面、やはり言語能力に自信がないため 1 人で授業する事は怖いと感じています。スクリプトをしっかりと作っておくなど、事前準備としてやる事が多いと感じました。(山川葵)
☞易しい英語を使って授業をすれば大丈夫です。難しく考えないようにしましょう。

⑲今日の講義の所感として、私が小学生の頃の外国語活動を振り返ってみると、1時間1時間の授業が楽しかった記憶はあるのですが、単元を通じて何を学んだかの観点ではあまり記憶に残っていないと感じました。そのため、模擬授業の際は、本時のめあてだけでなく、単元全体の目標も児童と共有することを意識していきたいです。また、言語活動のポイントの中でも特に、生きた言語活動となるように、「児童が本当に伝えたい気持ち、考え」を伝えあう活動になるように心がけて授業づくりに励んでいきたいです。

⑳今回の講義では指導案作成の際に意識すべきことを学んだ。年間指導計画で意識すべきことを踏まえて、単元計画を作り、指導案を作る。この話で一番印象に残ったのが、学校行事と組み合わせながら授業を考えるということであった。これは、再定義された「言語活動」、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動」をやりやすくしてくれる。テキストの内容を覚えて言葉を言うではなく、目的・場面・状況等を明確に判断してコミュニケーションを取ることが大切であると分かった。

㉑今回、学習指導要領に明記されている言語活動の5つを実際の授業活動と共に見ていき、想像が付きやく理解ができた。特に書くことに関しての言語活動は、子どもの首を絞めるような活動にならないよう細心の注意を払うことが必要だと感じた。慣れ親しんだものを見て書けることが最終ゴールであると附属の先生に言われたことを思い出し、小学校で子どもたちに英語と触れさせる方法はどちらかという話すことなんだと改めて思った。書くのを意識すればするほど、中高に上がるにつれて英語嫌いが増えていく。英語はコミュニケーションとしてのツールであり、勉学とは少し違う。人と理解し共有し合うためのツールが英語であることを教師は心に留めておく必要がある。そのため勉学としての意識に囚われず、子どもたちが英語でのコミュニケーションに楽しさを覚えることに価値があると私は考える。

㉒今日は、小学校外国語活動Ⅱの2回目の講義だった。今回は、外国語の授業づくりということで、私たちが小学生の頃に受けたことの無い外国語の授業というものをいかにして作っていくかという点について学んでいった。大城先生が作った外国語の授業づくりの研修映像を通して、5つの言語活動を通して子どもたちに、外国を学ばせていく方法をいくつか知ることができた。外国語の授業を受けたことないということは、イメージが掴めないという点ではデメリットかもしれないが、逆に、イメージが無い分、自分で1から作り上げていけるという点ではメリットにもなりうると思った。その外国語の授業をつくりあげていく

第1段階として、この授業でたくさん学んで行けたらいいなと思う。

㊸今回の講義では指導計画や単元計画、指導案の立て方を学ぶことが出来た。児童の実態を踏まえて指導案を作ると、教科書通りに授業を進めることは相応しくない。外国語では他教科や地域の事象と関連させることで児童の実態に沿って授業を作れることが分かった。ビデオでは、聞く、話す(やり取り、発表)、読む、書くの5領域をそれぞれの領域ごとの実践を見ることで、言語活動をイメージすることが出来た。

㊹今日の講義内容から指導案作成のポイントや、指導のポイントについて学ぶことができた。特に言語の授業で大切になってくる「言語活動」では留意点がいくつかあるとわかった。まず前提として、英語も言語の一つであり、日本語を学ぶのと同じように言語活動をしていく必要がある。具体的には、目的や状況、場面を明確にした活動であること、自分の本当の気持ちや考えを伝え合う活動であること、使いながら学ぶことを心がけることが求められる、ということも学んだ。本来の言葉の役割を理解して学ぶことで、楽しい授業になるという言葉の通り、どんな授業きおいて楽しく学ぶことが大切であることを意識して授業作りをしていくことが求められると感じた。そのためにも、学習指導要領と照らし合わせて、児童の実態を踏まえたり他教科と関連させたりすることでより楽しい授業を作っていけるようにしたい。加えて、賢先生のように楽しみながら授業を作れたらベストだと思うので、今日学んだポイントを忘れずに頑張っていきたい。

㊺今回の講義を通して、英語の授業を作るときのポイントをビデオでの実践例を見ながら具体的に知ることが出来た。私が、印象的だったことは、「話す、聴く、読む、書く」それぞれの分野で、場面・状況・目的を意識することが大切だということだ。例えば、「読む」の学習の際は、教員は手紙を利用して、慣れ親しんだ表現をうまく子どもたちの一緒に学習できていた。子どもたちも自分たちと同年代の他国の子からの手紙に対して、興味を持って自然と学ぶことが出来ている様子が見られた。ここで、一つ疑問があって、教師は授業の工夫として、手紙を用意したのでしょうか、それともこれは、本当の話だったのでしょうか。

☞ビッキーはまだ文字が十分に書けないのでh、お母さんと相談をして指導者が書いたようです。児童の手紙に対してビデオレターが後届いたようです。

㊻英語の授業を作るときは、他教科との関わりや他学年についてをよく考えることが大切ということが、どういうことなのかを聞いた。今まであまり考えてこなかったもので、授業づくりをする際に考慮するポイントが広がった。今までのイメージがどちらかという一つ一つの授業を単位に考えていたので、単元に向かって授業を考えないといけないなと思った。授業の初めに「この単元が終わったら、こうなる」という目標を示すことで、自分の成長した姿を想像しやすくなり、モチベーションアップにつながると考えた。教育の設計図は

指導要領ということを忘れないように気を付けようと思った。ビデオ視聴では、言語活動について学習した。目的や場面、状況を明確にして活動することに気を付け話を聞きやすくしたり、お互いに気持ちを伝え合う活動ということ、使いながら学ぶことを意識していくことが大切だと考えた。

⑳ 今回の授業で「目的・場面・状況等を明確にした言語活動」はとても大切だなと感じた。私が中学生の時、「Do you ~? Do you ~? Yes, I Do. No, I don't.」とリズムに乗せて歌にし、「Do you ~?」と聞かれたらこのように答えるんだよと教えられていた。当時は何も疑問を抱かなかったが、今日の授業を受けて、同じ英文でも状況が違えばこんなにも意味が変わるのだと驚いた。状況が違えば意味も異なり、当然答え方も変わってくる。中学の頃の先生は多分、みんなが覚えやすいようにという配慮だったかもしれないが、今回習った「目的・場面・状況等を明確にした言語活動」を自分の模擬授業に取り入れたいと考える。

㉑ まずは、映像資料がわかりやすかったので、内容理解がしやすかったです。また、「子どもの実態をふまえること」や、「見通しを立てて授業をつくること」などは、外国語活動だけに限らずどの教科でも言われていることなので、しっかり意識していきたいと思いました。さらに、学校行事などと絡めて単元をつくるというのが自分になかった視点だったのでとても勉強になりました。「本当のこと」を話したい・聞きたいという気持ちが主体的な活動に繋がっていくんだろうなと思ったので、授業をつくる時にはその点も考慮してつくれたらと思います。講義ありがとうございました。

㉒ 今回の授業では、指導案を作る上で大事なことや気をつけないといけないことがたくさんあった。また、外国語活動では、言語活動が大事にされていて、言語活動を通して、3つの領域を育成するということを初めて知った。言語活動は、実際に英語を用いて、互いの考えや気持ちを伝え合うことをメインとすると言っていて、実際のコミュニケーションを通して学ぶことの大切さを理解することができた。私も授業をする時は、このことに気を付けてやろうと思う。

☞ 言語活動をとおして学ぶということは「使いながら学ぶ」「学びながら使う」と考えてもかまいません。

㉓ 今回の講義では指導案を作る際に意識することを学んだ。教科書や指導書通りにやるのではなく、それに加えて子どもの実態をふまえた指導の仕方や地域と関連づけ、そのクラスに最適である授業を作らなければならないと感じた。また、この授業終了後にどんな能力が身につくのか、単元終了後や1年後の子どもたちの姿を想像し、それを目標に授業を行わなければならない。他の人の模擬授業を参考にしながら、自分らしい授業を作っていくたい。

③①今回、年間指導計画や指導案について説明を受けたが、情報が多くて混乱した。再度内容を振り返って、今回得た知識を自分の中に吸収していきたいと思った。印象に残っているのが、「言語活動」の定義である。表現を練習するという活動も含まれていると思っていたが、それは言語活動を行う準備段階でしかないということに気づくことができた。相手とやり取りを行うということだけでなく、「互いの考えや気持ちを伝え合う活動」という部分があくまで英語は手段であるということの意味していると思った。そう考えると、文字が書ける、英文が読めるというような知識に偏った授業になりにくくなるのではないかと感じた。「相手にこういうことを伝えたいんだけど、英語ではどんなして表現すればいいのかな？」という考えを教師と子どもが互いに持っていれば、外国語活動又は外国語は縛りのある教科ではなく、自由な活動になっていくと私は考える。確かに英語で表現するためには、最低限の基礎知識は必要となってくる。しかし、その基礎知識を無理やり教え込むのではなく、先生が言っていた「場面」から例を出して学習につなげていってもいいのかなと感じた。日常に即した話題だと、子どもたちが分からない表現が出てきたとしても、前後の文の流れで意味を汲み取ることができるから「場面」からの学習も可能ではないかと私は考える。

☞年間指導計画や指導案についてはもう少し整理して説明すべきでした。すみませんでした。